

〔A〕東条英機内閣—テキスト P82 対応—

満90歳で最後の元老西園寺公望が死亡したため、内大臣木戸幸一の推薦を受けて、1941年10月18日に東条英機内閣が成立した。

東条英機内閣は、難航していた日米交渉の中止を見越して、この時期すでに真珠湾奇襲攻撃の予行演習を九州で開始していたんだけど、こうした日本の考えは実はアメリカにバレていたんだよね。なぜかというと、外務省の暗号を解読されていたから。海軍省などの暗号も含めて全て解読されることになるのは、もう少し先の話なんだけど、アメリカのフランクリン・ローズヴェルト大統領も日本の意図を知っていたんだ。

そして、日米交渉において最後通牒の形になるハル＝ノートが突きつけられる。これは、授業でも言ったように、右のようなデス＝ノート並の内容。

<ハル＝ノートの内容>

- ①フランス領インドシナから撤退しろ
- ②日独伊三国同盟を白紙化しろ
- ③日中戦争を止めて、ただちに撤退しろ
- ④満州国も認めない

①～③はわかるけど、④の「満州国も認めない」には、日本政府もガクガクブルブル。満州国は、この当時はもはや黙認されている状況にもかかわらず、それすら認めないわけなんだから。つまり、日本の領土は、満州事変以前の状態の北海道・本州・四国・九州と、朝鮮・台湾・澎湖諸島・千島列島・南樺太と、旧ドイツ領南洋諸島の委任統治権だけってこと。そして、この条件を呑むことができたら、日米交渉を再開してやる、ってだけなので、今現在ストップされている鉄鋼・石油などの輸出禁止を解除してくれるわけでもないんだ。

だから、東条英機内閣もこのハル＝ノートを見て、「アメリカは日本と話し合うつもりがない。完全に戦争するつもりだ…。」と悟る。そして、御前会議(天皇臨席の会議のこと)のもと、12月8日の開戦が決定したんだ。

〔B〕太平洋戦争(日本の進撃)—テキスト P83 対応—

こうして、1941年12月8日にアメリカのハワイ基地への真珠湾攻撃、イギリス領土のマレー半島上陸が行われたことによって太平洋戦争が勃発した。ただし、太平洋戦争とかアジア・太平洋戦争という名称は現在のものなので、当時は大東亜戦争と称されたんだ。さらに、戦争が始まったのなら、なぜ太平洋戦争をしているのかという目的も明らかにしなければいけない。それが「大東亜共栄圏」の建設だ。これは、「欧米列強の植民地政策に苦しんでいるアジア諸国を解放するために、日本は欧米と戦争しているんだ」というもの。名目としては素晴らしいものなんだけど、実際には日本のアジア侵略を正当化するためのスローガンにすぎなかつたのが寂しいところだね。なお、英・米など連合国に戦争目的は大西洋憲章という。

<皇民化政策>

日本に併合・割譲された朝鮮・台湾なども、枢軸国として日本と一緒に戦うことになる。そこで、朝鮮人や台湾人を日本人と同じように変えていく皇民化政策が行われるんだ。例えば、「朴」・「李」といった名前を日本名の「田中」・「鈴木」とかに変えさせていく創氏改名、天皇崇拝のための神社参拝の強要、日本語の強制といったところだね。そして、日本の戦況が悪化してくると、兵隊数が不足するようになり、内地でも労働力が不足するようになる。そこで、兵隊不足を補うため、朝鮮では1943年から、台湾では1944年から徴兵制が実施され(あくまでも志願制)、また内地での労働力不足を補うため、朝鮮人などを強制連行して、炭鉱などで強制労働を行わせたりしたんだ。なお、その例として「強制的」に軍人への性的奉仕をさせたという従軍慰安婦に関しては、朝日新聞による捏造であったので、教科書から「従軍」という言葉が削除されることを願っている。

アメリカ・イギリスがヨーロッパ戦線に主力をつぎ込んでいたので、最初のうち日本は連戦連勝。1942年2月にはシンガポールも占領して、国内では「東条英機内閣バンザイ！」って感じで大盛り上がりだ。そこで、軍部はこの勢いに乗じて、議会における軍部の勢力も確立させてしまおうと考えて、1942年4月の翼賛選舉に臨んだんだ。これは、正式名称は第21回衆議院議員総選挙になるんだけど、なぜ翼賛選挙と呼ばれるのか。

そもそも、この時の衆議院議員の議員数は466名で、彼らは全て大政翼賛会に所属している。でも、大政翼賛会は、立憲政友会・立憲民政党・社会大衆党などの政党が解散して出来上がった組織なので、もともと政治家だった人々が大政翼賛会の大部分を占めているわけだ。だから、日本が劣勢になった場合、いつ内閣に反旗を翻すかわからない。それなら、この総選挙を利用して、根っからの政治家たちを落選させて、軍人たちを議員に当選させてしまえばいい。

そこで、466議席を争う第21回総選挙の際に、大政翼賛会の推薦する軍人・軍部支持の政治家などが466名立候補して、その結果381名が当選したんだ(大政翼賛会の推薦を受けずに当選した候補者は、尾崎行雄・斎藤隆夫・鳩山一郎などわずか85名のみであった)。だから、大政翼賛会による選挙ということで翼賛選挙と呼ばれるわけだ。そして、その当選した翼賛議員と呼ばれる人たち381名は、翼賛政治会という政治結社を組織したため、事実上の国一党体制が成立することになったんだ。なお、翼賛政治会はのちに対立などがあり、1945年に大日本政治会に改称している。

[C] 太平洋戦争(アメリカの反撃) - テキスト P83 対応 -

連戦連勝だった日本は、その後ハワイの占領を目指した。1941年12月8日に行ったハワイへの真珠湾攻撃は、あくまでもアメリカ太平洋艦隊に大打撃を与えるために行った奇襲攻撃にすぎず、占領したわけではないからね。ただ、アメリカの太平洋艦隊の主力基地が置かれているハワイ基地の攻略は、入念な準備が必要になってくる。そこで、ハワイ島から少し近いミッドウェー島を攻略して、そのミッドウェー島をハワイ攻略の拠点にしようと考えたんだ。

そして、1942年6月、運命のミッドウェー海戦が起きる。日本は、6隻しか所有していない航空母艦(空母)のうち4隻を含む、150隻の大艦隊でミッドウェー島の攻略を目指したんだ。でも、この頃には海軍の暗号もアメリカに完全に解読されてしまっていた(ハル=ノートの頃は、外務省の暗号が解読されていたが、海軍の暗号は解読されていなかつた)。そして、その4隻の空母を失うという大敗北を喫してしまったんだ。こうして、空母という主力を失った日本は、制海権・制空権も失うことになり、これ以降戦局は不利に転換していく…。



[ミッドウェー海戦]

空母を失った日本だけど、この頃の世界的にも優秀な航空機・パイロットがまだ十分にある。そこで、その戦闘機・パイロットを利用した作戦に切り替え、今までの太平洋諸島からオーストラリアの攻略へと方向転換を図ったんだ。オーストラリアは、東南アジアに拠点をもつイギリスとアメリカの物資輸送の中継地点になっていたから、これを奪い取れば、イギリス・アメリカを分断できるからね。そこで、オーストラリアに近いガダルカナル島に飛行場を建設して、その飛行場から戦闘機を飛び立たせて、オーストラリアを攻略しようとを考えたんだ。

ところが、ようやくその飛行場の建設が完成した矢先、アメリカ軍の総攻撃に遭い、奪われてしまったんだ。これも、やっぱり暗号を解読されていたことが大きいんだよね…、アメリカはその飛行場の完成を待って総攻撃をしかけてきたわけだから。そして、それを奪い返すために、6ヶ月間ガダルカナル島で抗戦を続けたんだけど、その結果多くの戦闘機・パイロットも失うことになってしまったんだ(これをガダルカナル島の戦いという)。

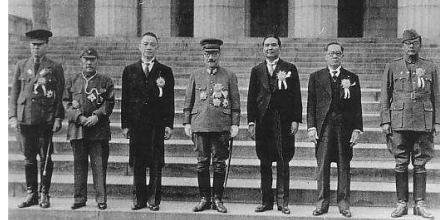
空母・戦闘機・パイロットの大半を失った日本に対して、アメリカは以前に日本が占領した場所を取り返すために、反撃を開始してくる。でも、日本軍には脱出するための船もなければ飛行機もない。そして、追い詰められた日本軍2500名による初の玉碎が起きた悲劇がアツツ島の戦いだ。

ミッドウェー島・ガダルカナル島での敗北によって、戦局が不利に向かっていくわけだけど、それを打開するためにも「まだまだ日本は行けるぞ！」っていうことを国内的にも対外的にアピールしておく必要がある。ヨーロッパ戦線では1943年の9月にイタリアが降伏てしまっているのもあるしね(ホント使えねえ国だ…)

そこで、1943年11月に東京で開かれたのが大東亜会議。これは、日本が占領した地域の満州国・南京政府(汪兆銘政権)・タイ・フィリピン・ビルマ・自由インド仮政府の代表者を東京に集めて、「我々アジア諸国は、歐米列強からの植民地支配解放のために頑張るぞ！」という大東亜共同宣言を発表したものだ。

ところが、これに対抗する形でその3週間後には、連合国首脳がエジプトのカイロに集まってカイロ会談が開かれるんだ。この会議に集まつたのはアメリカのフランクリン・ルーズベルト大統領、イギリス首相のチャーチル、中華民国総統の蔣介石。

そして、この会議で発表されたカイロ宣言の内容は、第一次世界大戦以後に日本が奪取した赤道以北の旧ドイツ領南洋諸島の委任統治権の剥奪、満州・台湾・澎湖諸島の中華民国への返還(中華人民共和国ではない)、朝鮮の独立など日本の領土問題の処理方針だったんだ。



[大東亜会議]

<カイロ宣言の覚え方>
「カルチャーショック」
カ…カイロ
ル…ルーズベルト
チャ…チャーチル
ショッ…蔣介石

□ カイロ宣言『日本外交年表並主要文書』

三大同盟国ハ日本國ノ侵略ヲ制止シ且之ヲ罰スル為ニ次ノ戦争ヲ為シツタルモノナリ。右①同盟国ハ自國ノ為ニ何等ノ利得ヲモ欲求スルモノニ非ス。又領土拡張ノ何等ノ念ヲモ有スルモノニ非ス。

右同盟国ノ目的ハ、日本國ヨリ千九百十四年ノ第一次世界大戦ノ開始以後ニ於テ日本國カ奪取シ又ハ占領シタル太平洋ニ於ケル一切ノ島嶼ヲ剥奪スルコト並ニ満州・台湾及澎湖島ノ如キ日本國カ清国人ヨリ盜取シタル一切ノ地域ヲ中華民国ニ返還スルコトニ在リ。日本國ハ暴力及貪欲ニ依リ日本國ノ略取シタル他ノ一切ノ地域ヨリ駆逐セラルヘシ

前記三大国ハ朝鮮ノ人民ノ奴隸状態ニ留意シ、軽テ朝鮮ヲ自由且独立ノモノタラシムルノ決意ヲ有ス。右ノ目的ヲ以テ右三同盟国ハ同盟諸国中日本國ト交戦中ナル諸国ト協調シ、日本國ノ無条件降伏ヲ齎スニ必要ナル重大且長期ノ行動ヲ続行スヘシ

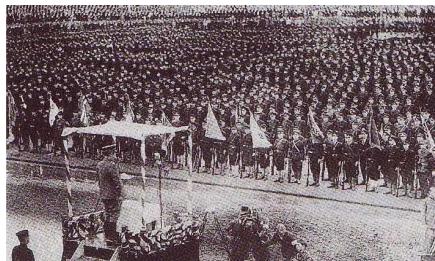
(三大同盟国(アメリカ(ローズベルト大統領)・イギリス(チャーチル首相)・中華民国(蔣介石大統領))は、日本國の侵略を制止し罰するため、今次の戦争を行っている。同盟国は、自國のためには何の利得も求めず、また領土拡張の念も有しない。

同盟国(アメリカ・イギリス・中華民国)の目的は、1914年の第一次世界大戦の開始以後に日本國が奪取し又は占領した太平洋における全ての島(日本が統治していた旧ドイツ領南洋諸島の委任統治権)を剥奪すること、並びに満州、台湾及び澎湖諸島のような日本國が清国人から盗取した全ての地域を中華民国に返還することにある。また、日本國は暴力及び強欲により日本國が略取した他の全ての地域から駆逐される。

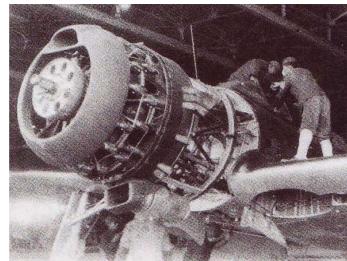
前記の三大国(アメリカ・イギリス・中華民国)は、朝鮮の人民の奴隸状態(日本による朝鮮の植民地支配)に留意し、やがて朝鮮を自由独立のものにする決意を有する。

以上の目的で、三同盟国は、同盟諸国中の日本國と交戦中の諸国と協調し、日本國の無条件降伏をもたらすのに必要な重大で長期間の行動を続行する。)

一方、こうした戦況の悪化に伴って、兵隊の数も国内で働く労働力も足りなくなっていく。そのため、この頃から今まで召集が免除されていた文系の大学生にも、赤紙が届いて召集されることになるんだ(あくまでも文系のみで、開発などに携われる理系は召集されない)。これを学徒出陣という。それから、男子中学生以上を軍需工場での生産や食糧の生産などにあたらせる勤労動員、結婚していない未婚女子も生産などにあたらせる女子挺身隊も実施されていくことになるんだ(「挺」に注意)。



〔学徒出陣(壮行会)〕



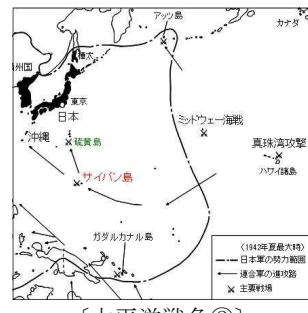
〔勤労動員〕



〔女子挺身隊〕

その中で絶対国防圏として(本土防衛・戦争継続のため必要不可欠と定めた地域)、最重要視されていたのがサイパン島だ。アメリカの爆撃機 B29 は、燃料を補給することなく 1 万 km 飛行することができる。だから、もしサイパン島がアメリカに取られてしまうと、そのサイパン島を基地に B29 による本土空襲が行われてしまう…。

でも、1944 年 7 月、ついにサイパン島が陥落し、この責任をとる形で東条英機内閣は総辞職して、代わって小磯国昭内閣が成立するんだ。そして、これ以降本土空襲が本格化するため、子供たちを地方に避難させる学童疎開が始まっていく…。



〔太平洋戦争②〕

[D] 小磯国昭内閣一テキスト P83 対応 -

サイパン島が陥落したことによって、これ以降たびたびアメリカ軍による本土空襲が行われるようになる。そして、サイパン島から出撃した後に、B29 以外の戦闘機が燃料を補給したり、不時着できる基地がほしかったアメリカは、サイパン島と東京の中間に位置する硫黄島へ進攻してくるんだ。それを防ぐために、日本は地下坑道陣地をつくるなど総力を上げたんだけど(実は日本よりもアメリカの人的損害の方が大きかった)、追い詰められた日本軍 2 万人が玉碎することになってしまう(これを硫黄島の戦いといいう)。映画「硫黄島からの手紙」を見て、知っている人も多いんじゃないかな。

そして、その硫黄島の戦いが終わった直後の 1945 年 3 月 10 日に行われたのが、B29 による東京大空襲だ。これは東京への焼夷弾による絨毯爆撃で、軍需工場や軍事施設を狙ったものじゃない。戦争というものは、日本対アメリカではなく、日本軍対アメリカ軍で行われるものなんだ。だから、国際法上でも、武器を持たない民間人に対する爆撃・殺傷は禁じられている。でも、東京大空襲は、民間人が住む江東区・台東区・墨田区を狙ったものだから、完全なる無差別攻撃にあたる。勝てば官軍・負ければ賊軍じゃないけど、南京大虐殺が非難される一方で、東京大空襲に関して触れられることが少ないのでおかしな話だよね。

硫黄島での戦いが続く中でも、日本は敗戦を受け入れる気配がない。そこで、アメリカ大統領 フランクリン・ローズヴェルト、イギリス首相 チャーチル、ソ連書記長 スターリンが、旧ソ連領クリミア半島のヤルタに集まって会談を開催したんだ(これをヤルタ会談といいう)。

〔ヤルタ協定の覚え方〕
 「殺るチャンスだ！」
 殺…ヤルタ
 る…ルーズベルト
 チャ…チャーチル
 スだ…スターリン

ここでは、ドイツ降伏後の処理方針や、国際連合に関する問題などが話し合われたんだけど、秘密裏に決まった内容がある。それが、ドイツが降伏した後から2~3ヶ月以内にソ連が対日参戦すること、さらに、ソ連が対日参戦したら、日露戦争でロシアが失った南樺太をソ連に返還すること、また千島列島をソ連に引き渡すことなどが定められたんだ。そして、これらの内容は秘密裏に結ばれたものなので、ここで決まったヤルタ協定はヤルタ秘密協定と呼ばれたりするんだ。つまり、ドイツが1945年5月に降伏することになるので、1945年8月中にソ連が連合国に与して、日本に参戦することが決まってしまったわけだね(秘密協定であるため、日本はそのことを一切知らない)。

回 ヤルタ協定『日本外交年表並主要文書』

三大国即チ「ソヴィエト」連邦、「アメリカ」合衆国及英國ノ指揮者ハ「ドイツ」國カ降伏シ且「ヨーロッパ」ニ於ケル戦争カ終結シタル後二月又ハ三月ヲ経テ「ソヴィエト」連邦カ左ノ条件ニ依リ連合国ニ与シテ日本ニ対スル戦争ニ参加スヘキコトヲ協定セリ

- 一、外蒙古(蒙古人民共和国)ノ現状ハ維持セラルヘシ
- 二、千九百四年ノ日本国ノ背信的攻撃ニ依リ侵害セラレタル「ロシア」國ノ旧権利ハ左ノ如ク回復セラルヘシ……

(イ) 樺太ノ南部及之ニ隣接スル一切ノ島嶼ハ「ソヴィエト」連邦ニ返還セラルヘシ

三、千島列島ハ「ソヴィエト」連邦ニ引渡サルヘシ

三大国ノ首班ハ「ソヴィエト」連邦ノ右要求カ日本国ノ敗北シタル後ニ於テ確実ニ満足セシメラルヘキコトヲ協定セリ

(三大国、すなわちソヴィエト連邦、アメリカ合衆国及びイギリスの指導者(ソ連書記長スターリン・アメリカ大統領ローズヴェルト・イギリス首相チャーチル)は、ドイツ国が降伏し且つヨーロッパにおける戦争が終結した後2カ月または3カ月を経て、ソヴィエト連邦が以下の条件で連合国側において日本国に対する戦争に参加することを協定した。

1. 外蒙古(蒙古人民共和国)の現状は維持する。

2. 1904年の日本国の背信的攻撃(日露戦争)により侵害されたロシア國の旧権利は、以下のように回復される。

(イ) 樺太の南部及びこれに隣接するすべての島をソヴィエト連邦に返還する。

3. 千島列島はソヴィエト連邦に引き渡す。

三大国(ソ連・アメリカ・イギリス)の首班は、ソヴィエト連邦のこれらの要求が日本国が敗北した後に確実に満足されることを合意した。

[E] 鈴木貫太郎内閣ーテキストP83 対応ー

話を日本に戻そう。硫黄島も奪われ、本土決戦も叫ばれる中で、アメリカ軍が本土に侵攻してくるまでの時間稼ぎに使われる形になったのが沖縄戦なんだ。そして、1945年4月にアメリカ軍が沖縄本島に上陸して、沖縄戦が始まる(アメリカ軍が沖縄に上陸した責任をとり、小磯国昭内閣は総辞職し、二・二六事件で重傷を負った鈴木貫太郎内閣が成立した)。この戦闘では、男子中学生が鉄血勤皇隊として戦場に動員され、また女子中学生は女子学徒隊として看護要員に動員されることになった。

その中で生徒・職員含めて210名の死者を出した悲劇の部隊が、沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校の女生徒で編成されたひめゆり隊だ(沖縄県糸満市にある慰靈碑「ひめゆりの塔」は知っていると思う)。そして、6月に沖縄はアメリカ軍に占領されることになるんだけど、その3ヶ月の抗戦の中で、日本軍が民間人を守らなかったこともあって、沖縄島民50万人のうち10~15万人が犠牲になった。

一方、ヨーロッパでは1945年5月にドイツが降伏し、そのドイツの戦後処理方針、また日本への降伏勧告のため、ドイツのペルリン郊外のポツダムで連合国によるポツダム会談が1945年7月に開かれた。

会談に参加したのは、アメリカ大統領トルーマン(1945年4月にフランクリン・ローズヴェルトが死去したため副大統領から大統領に昇格した)、イギリス首相チャーチル(保守党的チャーチルがイギリス総選挙で敗れたため、会談の途中で労働党的アトリーにかわった)、ソ連書記長のスターリン。

そして、この会談で発表されたポツダム宣言の内容は、以下の史料を参照しておいてほしいんだけど、(6)日本の軍国主義の駆逐、(8)カイロ宣言に基づく日本の領土制限、(10)戦争犯罪人の処罰、(13)日本国軍隊に対する無条件降伏の勧告、といったものだ。

回 ポツダム宣言『日本外交年表並主要文書』

吾等合衆国大統領、中華民国政府主席及「グレート・ブリテン」国総理大臣ハ、吾等ノ数億ノ国民ヲ代表シ協議ノ上、日本国ニ對シ、今次ノ戦争ヲ終結スルノ機會ヲ与フルコトニ意見一致セリ。

六、吾等ハ無責任ナル軍国主義カ世界ヨリ駆逐セラルルニ至ル迄ハ、平和、安全及正義ノ新秩序力生シ得サルコトヲ主張スルモノナルヲ以テ、日本国国民ヲ欺瞞シ之ヲシテ世界征服ノ拳ニ出ツルノ過誤ヲ犯サシメタル者ノ権力及勢力ハ、永久ニ除去セラレサルヘカラス。

八、「カイロ」宣言ノ条項ハ履行セラルヘク、又日本国ノ主權ハ本州、北海道、九州及四国並ニ吾等ノ決定スル諸小島ニ局限セラルヘシ。

十、吾等ハ日本人ヲ民族トシテ奴隸化セントシ、又ハ国民トシテ滅亡セシメントスルノ意図ヲ有スルモノニ非ザルモ、吾等ノ俘虜ヲ虐待セル者ヲ含ム一切ノ戦争犯罪人ニ對シテハ、嚴重ナル処罰ヲ加ヘラルベシ。日本国政府ハ日本国民ノ間ニ於ケル民主主義的傾向ノ復活強化ニ對スル一切ノ障礙ヲ除去スベシ。言論、宗教及ビ思想ノ自由並ニ基本的人権ノ尊重ハ確立セラルベシ。

十三、吾等ハ日本国政府カ直ニ全日本国軍隊ノ無条件降伏ヲ宣言シ、且右行動ニ於ケル同政府ノ誠意ニ付適當且充分ナル保障ヲ提供センコトヲ同政府ニ對シ要求ス。右以外ノ日本国ノ選択ハ迅速且完全ナル壊滅アルノミトス。

(我々(アメリカ・イギリス・中華民国。以下同じ)、アメリカ合衆国大統領(トルーマン)、中華民国主席(蒋介石)及びイギリス政府首相(アトリー)は、我々の数億の国民を代表して協議した結果、この戦争終結の機会を日本に与えることで意見が一致した。

6. 我々は、無責任な軍国主義が世界から駆逐されるまでは、平和、安全、正義の新秩序は実現不可能であるという主張をもって、日本の人々を欺き、世界征服という間違った方向に導いた影響勢力(軍部・政府・財閥などの戦争を指導した者)や権威・権力は永久に排除されなければならない。

8. カイロ宣言の条項は履行されるべきものとし、また、日本の主權は本州、北海道、九州、四国及び我々の決定する周辺小諸島(1946年1月にGHQが対馬など約千の小島を指定した)に限定するものとする。

10. 我々は、日本を人種として奴隸化するつもりもなければ国民として絶滅させるつもりもない。しかし、我々の捕虜を虐待したものを含めて、すべての戦争犯罪人に対しては断固たる正義を付与するものである。日本政府は、日本の人民の間に民主主義的風潮を強化しあるいは復活するにあたって障害となるものはこれを排除するものとする。言論・宗教・思想の自由及び基本的人権の尊重はこれを確立するものとする。

13. 我々は日本政府に対し全ての日本国軍隊の無条件降伏の宣言を要求し、且つ、そのような行動が誠意を持って実行されるよう、適切かつ十二分な保証を提出するように要求する。もし拒否すれば、日本国は即座にかつ徹底して撃滅される。)

<ポツダム宣言の覚え方>

「ポツ」と父ちゃん後ずさり」

ポツ…ポツダム

とう…トルーマン

ちや…チャーチル

あと…アトリー

ずさり…スターリン

ここで史料文に記されている「アメリカ・イギリス・中華民国」という国名に気をつけてもらいたい。ポツダム会談で話し合ったのは「アメリカ・イギリス・ソ連」だけど、既述したように、まだソ連は対日参戦していないし、ここで「日本降伏しろ by アメリカ・イギリス・ソ連」と署名してしまうと、日本にソ連の対日参戦がバレてしまう。

そのため、ソ連のスターリンの名前を使えないので、中華民国の蔣介石に電話して了解を得た上で、**アメリカ・イギリス・中華民国**の名で日本に対する無条件降伏が勧告されたんだ。

この有名なポツダム宣言に対して、日本が最初にとった対応は黙殺、つまり無視。天皇制を存続させるといった文言が入っていなかったから、この時の日本にとっては受け入れられる内容ではなかった。でも、この頃の日本でも、敗戦を受け入れるための終戦工作が行われているんだ。

そもそも、昭和天皇から直々にお願いされて成立した鈴木貫太郎内閣は戦争を終結させるための内閣だった。この頃の日本では、一億総玉碎を唱える一部の軍人もいたけど、敗戦を受け入れる準備をしていた。ただし、内閣にとって一番大切なのは、天皇制を維持すること。だから、天皇制についての言及がなかったポツダム宣言は受け入れることなどできず、ある国に講和の仲介を依頼していたんだ。その国とは、あろうことかソ連だったんだ。

日本はソ連と結んでいる日ソ中立条約がまだ有効期間であり(1945年4月5日に日ソ中立条約の不延長を通告してきているが)、日米戦争においては中立の立場になる。そこで、一縷の望みをかけて、ソ連にアメリカとの仲介をしてほしいと依頼していたんだ。でも、ソ連はヤルタ協定で対日参戦を決定していて、日本に参戦する気マンマン。その日本の依頼をのらりくらりとかわして、最終的に8月8日にソ連が対日参戦てくる(ソ連は日ソ中立条約の有効期間を破って侵攻してきた)。

ということは、日本にとって最後の希望であったソ連が対日参戦したらジ・エンド。日本は敗戦を受け入れるハズだ。なお、それでも日本が受け入れなかったら、アメリカが原子爆弾を投下するのも一応筋は通ると思うんだ。でも、日付を考えてほしい。アメリカが原爆を広島・長崎に落とした日付は**8月6日・8月9日**で、広島への原爆投下はソ連が対日参戦する2日前の8月6日だ。順番がおかしくないか? ソ連が対日参戦した後に原子爆弾投下ならわかるのに、なぜ日本が終戦を受け入れる可能性の高いソ連の対日参戦が行われる前に、原爆を落とす必要があったのか?

それは、ソ連に手柄を与えたくなかったことと、原爆の威力を試したくてしょうがなかったこと。実は、ポツダム会談の途中でトルーマン大統領は、原爆実験成功的報告を受けていた。会談の中でトルーマン大統領は、ソ連に対日参戦してもらう約束を得たけど、そのソ連の対日参戦によって日本が降伏を受け入れたら、原爆を試す機会もなくなってしまう。さらに、もしもソ連が対日参戦したことによって日本が敗戦を受け入れたら、ソ連の手柄が大きくなってしまう。

アメリカは、今後の戦後世界はアメリカを中心とした資本主義陣営と、ソ連を中心とした社会主义陣営を軸に構成されていくと読んでいた。そして、もしもソ連の対日参戦で終戦となると、ソ連の影響力が更に大きくなってしまう(実際、ソ連は北海道もよこせと言っていた)。そのためにも、アメリカが戦争を終結させたというインパクトを世界中に与える必要があったんだ。だから、ソ連の対日参戦の前に原爆を落とす必要性があったわけだ。

それから、なぜ広島と長崎という民間人が多く住む地に原爆を落としたのか? それは原爆の威力を試したかったから。実は、原爆を落とす場所には、東京・大阪なども含めた15都市が候補にあがっていた。しかし、東京・大阪などは空襲によって、すでに焼け野原になっているため、そこに原爆を落としたとしても、どれだけの威力があるか実験データがとれない。だから、まだ空襲の被害がない4都市が最終候補地として残った。それが広島・小倉・長崎・京都なんだ。…京都を外したのは正解だったね。もしも、京都に原爆を落としていたら、日本人の対米感情は現在のようなものでは済まされなかっただろう。

その結果、広島・小倉・長崎の順で、原爆投下地の優先順位が決まった。そして、**8月6日に広島**にはウラン型の原子爆弾を、そして**8月9日**は小倉に投下する予定だったんだけど、当日小倉の上空が視界不良だったため、急遽**長崎**に変更されることになり、プルトニウム型の原子爆弾が投下される。ここで、アメリカが2種類の原爆を使用したことがわかるはずだ。そして、その爆破の威力などを記録していた。つまり、ウラン型・プルトニウム型の原子爆弾がどれだけの威力をもち、どれだけの被害を与えるか、その実験データとして投下されたのが広島・長崎の原子爆弾だったわけだ。

なおかつ、広島・長崎は軍施設があるものの、住民のほとんどが民間人だから、これも東京大空襲と同じように、無差別攻撃なんだ。こうした事実を少しでも知つていれば、アメリカ人の多くが考える「原爆は正しかった」なんて言えるハズない。…ただ、もしソ連の対日参戦によって日本が降伏を受け入れたら、北海道はソ連に持つていかれた可能性が高い。さらに、最悪のケースとして、日本を米・英・ソ・中の4カ国で分断統治するという案もあった。ないし、東ドイツ・西ドイツや、北朝鮮・韓国のように、日本が東日本・西日本という2つの国に分かれてしまった可能性もある。アメリカの原爆投下で終戦を受け入れ、アメリカの一国統治になったことで、日本が分断されることなく一つの国としてまとまることが出来たというのも、また一つの事実でもあるんだ。

—<ソ連との問題>—

戦前の日本が支配していた領土において、南権太は日露戦争で奪った領地だから、日本には返還する必要があると思う。でも、千島列島は、1875年の権太・千島交換条約で、権太をロシアに譲る形で千島列島の領有権を日本が持つことになった平和的な条約なのだから、千島列島をソ連が領有する権利はない。だから、僕は北方領土だけでなく、千島列島までが日本の領土だと思っている。

そして、日本とソ連は**1941年に日ソ中立条約**を結んでいて、互いに**5年間**の有効期間で戦争をしないと取り決めていた。つまり、1941年～1946年まで日本とソ連は戦争してはならないわけだ。でも、ソ連はヤルタ協定に基づいて、最終的に**日ソ中立条約**を破り、1945年8月8日に満州国・南権太・千島列島に侵攻してきた。それによって起きた問題についても知っておいてほしい。

ソ連軍に捕まつた男性たちは、シベリアに送られて強制労働させられることになった(**シベリア抑留**という)。また、満州には1932年の満州国成立後に、**滿蒙開拓団**など満州国に移り住んでいた多くの日本人がいた(**満州移民**と呼ばれる)。でも、ソ連軍の満州侵攻の中で、子供を連れて逃げるのは難しい。だから、自分の子供を中国の農家に預けたりしたんだけど、その途中で両親がソ連軍によって殺害されてしまう。その結果、日本人の子供なんだけど中国人の手で育てられ、祖国の日本に帰りたくても身寄りがないため帰ることのできない**中国残留孤児**の問題が現在も残っているんだ。

こうした状況を受けて、御前会議で昭和天皇が御聖断を下し、**ポツダム宣言**による無条件降伏を8月14日に受諾したことによって、太平洋戦争は終結した。そして、翌日の8月15日に公式発表、つまりラジオで**玉音放送**が流れ、天皇から国民へ戦争敗北が伝えられたんだ。さらに、その敗戦の責任をとって、**鈴木貫太郎**内閣は総辞職して、皇族の**東久邇宮稔彦**内閣が敗戦処理内閣として成立することになる。

その東久邇宮稔彦内閣のもと、アメリカ戦艦**ミズーリ号**上において、**重光葵**外相と**梅津美治郎**参謀総長が降伏文書に調印した1945年9月2日から連合国軍による日本の占領政策が行われていくことになる。そして、この日本の占領政策は**サンフランシスコ平和条約**の発効される**1952年**までの**7年間**にわたって行われることになるんだ。なお、戦時中の文学作品としては、**火野葦平**の『妻と兵隊』と**石川達三**の『生きてゐる兵隊』が知られている。前者が日中戦争の日本軍の徐州作戦を描いて**100万部超**のベストセラーになったのに対し、後者は日本軍の残虐行為を描写したため、**発売直後に発禁処分**となっている。



[降伏文書調印 at ミズーリ号]